

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子港南三丁目保育園
施設所在地	港区港南三丁目5-21
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

リズム遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

港南地区の高層住宅に住んでいる子どもが多く、普段から戸外遊びをする機会が少ないのか、転倒した際に手が出ずケガにつながるケースが多いと感じる。また、昨今の子ども達はYouTube等の動画で音楽を聞くことが多く、曲だけで音楽を聞く少なくなり、音楽は見るものとなっている傾向がある。その2つの観点から、リズム遊びを通して曲に合わせて身体を動かす機会を作ることで、保育者や他児の模倣をしてボディイメージ力を育むと同時に、音楽に親しみ持ち、身体でリズムを取る心地よさを感じてもらったり、聞く力を育みたいと思いこのテーマに設定した。

2. 活動スケジュール

第3水曜日をリズムの日と設定し、クラスごとに実施(15~20分)。季節の歌や遊戯なども組み込む。
7/3、8/22、9/5、10/22、11/27、12/15実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

電子ピアノ・CD

安全に体を動かせるように、棚やテーブル、椅子などを取っ払ってスペースを作る。0歳児は保育者の近くで安心して過ごし、転倒などを未然に防げるよう移動式の扉で仕切り、0歳児なりに身体を動かし且つ安全に過ごせるスペース作りをする。1、2歳児は思いっきり走れるよう仕切りをなくし広いスペース作りをした。1歳児は月齢や当日の機嫌などに合わせて、2グループに分かれて実施する。

・遊戯の際、走り回る動きが入っている曲の場合は2歳児と1歳児高月齢児と合同にしたり、0歳児は0歳児室でと状況に応じて行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

保育者に動きを模倣しながらピアノの曲に合わせて体を動かす（季節の歌を歌ったり遊戯も組込む）

- ・曲と動きを知らない保育者もいるため、歌いながら動きのポイントの説明し一緒に身体を動かす。
- ・保育者や子ども達が動きを覚えてきたので、子ども達が飽きないように曲を少しずつ変えて曲(動き)を増やしたり、季節の歌や遊戯を取り入れた。
- ・11月から、日常とつなげられるよう、保育者が実施したいタイミングでリズムを実施できるように、動きのポイントやイラスト、楽譜をまとめて資料作成し配布した。

➡事前に資料を配布することで、担任からリトミックの進め方について意見が上がるようになり、クラス担任自身も積極的に提案したり、活動が円滑に進むようになった。

※遊戯をする際は、子ども達の顔を見ながら踊ったり声かけできるように、振付を覚えて実施した。

※季節の歌を歌う時には、子ども達に分かりやすいように歌詞の説明をして歌った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

<リズム>

・2歳児のA君は、初めての集団保育で新しい環境に慣れるまで大分時間がかかり、身体を動かすことをあまり好まず、壁際で泣いていた。他児の様子を笑顔で見ている際、活動に誘うが参加する程のモチベーションではない様で見て参加してもらった。運動遊びや戸外遊びなどで他児と関り身体を動かす経験を重ね、10月頃は他児と顔を見合わせながら笑顔で参加していた。

・ボディーイメージが弱く、楽しんで参加するも模倣がうまくできないB君。カメのポーズはうつ伏せの状態から背中を反って足首を掴むのだが、立った状態から上半身を前に倒し床に手をつけていた。0、1歳児がよく見せるカメのポーズである。うつ伏せの状態から、身体を反らせる等、一つ一つの動きを丁寧に伝えることで、10月頃にはイメージした通りにカメのポーズをしていた。他の動きも、イメージ通りに身体が動かせるまでの時間が少しずつ短くなってきている。

<遊戯・歌>

・2・3回続けて行った際「次の曲なんだっけ？」と保育者が会話をしていると、0歳児が頭をポンポンと叩き、次の曲の振り付けをしていた。

・遊戯をあまり好まなかったC君が、年明けに新しい曲で遊戯をすると抵抗することなく、楽しそうに踊り始め「もう1回！」「さっきのがいい」等とリクエストしていた。

【リズム】 7月頃 壁際に立って見て参加



10月頃 みんなと一緒に動いています



カメラができるようになりました！



【遊戯】 いないないばあ！



かえるさんぴょーん



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・リズムの時間に見て参加してたA君が、自発的に笑顔で参加していたり、ポディーイメージが弱いB君がイメージ通り身体で表現できたり、運動会はリハーサル時から緊張して踊れなかったC君が「もう1回」と遊戯をリクエストをするようになったりと、クラスに顕著に変化が見られた。担任が、子ども達に選択権を持たせ、さり気なく誘ったり、断られても諦めず次の機会に誘う等、焦らず長い目で子ども達の姿を見守る事ができたからこそ、子ども達の「やりたい」を引き出せたと感じた。
- ・身体を動かす事の楽しさに音楽が合わさって、普段は手をつなぐことを嫌がる子が遊戯中には手を繋いだり、0歳児が保育者の会話に振付で応えたりと、音楽で楽しい雰囲気作りができる事や振付を覚える等の記憶力を育める事も再確認できた。
- ・設備を常設し遊ぶ機会が多い運動遊びも同時並行で進める事で、固有覚の発達が促されポディーイメージに繋がったと感じる。
- ・運動遊び、リズムの実施後、毎回ドキュメント作成をし掲示をする事で、保護者も「楽しそう!」「こんな高い所から滑ったの?」等、すくわくの取組みに興味を持ち、子ども達や保育者と共通の話題になる事も。すくわくの取組みが保護者と園を繋げるきっかけの一つとなった。
- ・今後は、保育者のタイミングでリズムを実施したり、遊戯や季節の歌を積極的に取り入れて欲しいので、子どもの楽しんでいる姿や成長した姿を保育者に言語化して伝えていこうと思う。